

意見交換会 各グループ発表

公益社団法人日本フィットネス協会（JAFA）事務局

2024/9/13 「GFI資格」養成校研修会

大学グループ

ファシリテーター：藤崎道子さん

- ▶ テーマ1 特別講演、トークセッションの感想
- ▶ テーマ2 学校としての取り組み

▶ テーマ1

- ▶ 教職やトレーナーを目指す学生が多い。健康づくり、健康運動指導コース、カリキュラムを受講する学生が少ない。
- ▶ 教職、トレーナーであったとしてもグループ指導、マルチな指導できる必要性は伝えるべきと感じた。グループ・パーソナル両方を兼ね備えた人材が、就職やその先につながることをオリエンテーション等で伝えていきたい。

▶ テーマ2

- ▶ 卒業生（GFI有資格者）を授業に招致して話をしてもらったり、実技指導を行っている
- ▶ 指導者の指導風景を動画に撮影して、学生に見せた
- ▶ フィットネスレガシーをテーマに作成して、参加してもらおう取り組みを実施
- ▶ ゼミ活動として地域に方々に指導をさせている

▶ その他

- ▶ オリエンテーションで使えるようなGFI有資格者の活動動画（短編ではなく、3～5分くらい）がほしい
- ▶ 資格取得の先にあるメリットを教員だけでなく教務事務方含め、多方面からアプローチが必要

大学グループ

ファシリテーター：和田左千子さん

- ▶ テーマ1 特別講演、トークセッションの感想
- ▶ テーマ2 学校としての取り組み

▶ テーマ1

- ▶ GFI+JATIなど、グループとパーソナルの両資格は多くの顧客に有効である。単位が両方取れるのであれば◎
- ▶ 講演、トークセッションの「マルチ」が印象に残った。学生がマルチなるには、教員もマルチ化が必要。
- ▶ 教員を目指す学生が多いため、通年のGFI養成が難しい。短期集中で養成。1年時は希望者が多く受験を試みたが、4年時になるまで年々情報を得てGFI不要となり受験者が減った

▶ テーマ2

- ▶ オリエンテーションで卒業時にどのようになるか（複数の資格取得）を説明。インターンシップに行くとGFI不要と言われ、教員免許が主になる。
- ▶ GFI、健実者を取らなくなっている。アプローチの仕方、学生のマインドを変えていく方法の情報交換。
- ▶ 2年生くらいは将来がはっきりしていないので、まず単位を取得させて考えてもらう。
- ▶ 卒業生のリアルな話は学生の心に響く。その際にJAFAのパンフレットを配布している。
- ▶ 資格対策の授業を行っている。E-ラーニングでもフォローしている。
- ▶ 自信をもって現場で指導をしてもらうために、地域に方々に指導する機会等の情報交換をし合った

短大グループ

ファシリテーター：中村幸さん

- ▶ テーマ1 特別講演、トークセッションの感想
- ▶ テーマ2 学校としての取り組み

▶ テーマ1

- ▶ グループ指導の大切さを改めて気づいた。ハイブリッドIRの大切さを感じている。
- ▶ 短大という2年間のカリキュラムでトレーナーと両方の養成は難しく、希望者も少なく、片方のみの取得になる傾向がみられる。
- ▶ 両方取れるカリキュラムだが、トレンドでパーソナルが人気。
- ▶ マーケティングが非常に大事という点で、グループ指導の充実も必要と感じた。

▶ テーマ2

- ▶ 健康づくり教室、介護予防の外部指導に出向いている。ボランティアを通して少しずつ指導の成功体験を積み重ねている。現場の活躍の場を学生の間知ってもらう。OB、OGが学校に訪問して、資格をどう活かしているか、これからの活躍を示している。
- ▶ 「こんなに上手にできない」と、あきらめるケースもあり苦慮している
- ▶ 下級生に上級生が資格の推奨

▶ その他

- ▶ SNSの動画をJAFでもっとUPしてほしい。養成校に映像を著作権の範囲内でほしい。

専門学校グループ

ファシリテーター：嶋崎裕美さん

- ▶ テーマ1 特別講演、トークセッションの感想
- ▶ テーマ2 学校としての取り組み

▶ テーマ1

- ▶ パーソナル志望者が多く、入学動機がパーソナルを学ぶためであるため、グループ指導は不要と思っている。コロナもありプール指導などグループ指導のインストラクターの仕事にイメージがないため、取り組みにくい印象。
- ▶ 指導者のマルチ化計画はいい話だった。両資格を取得させている学校がある反面、金銭面等で養成できない学校も。将来的にこの団体の勉強ができる、といった好奇心づけができるとうい。両資格の単位補完、他資格で受験料減免制度があれば業界全体としてはいいのでは。
- ▶ 伝えられる人になるためにはGFIがよい。自分で選ぶ、決められない学生も多いので、資格の導入方法について考えている。

▶ テーマ2

- ▶ 既にマルチ化戦略に取り組んでいる学校がある。難しい学校は、有効性を伝えたい。GFIを持っていれば、即戦力、レッスンデビュー時の自信度が違うなど、卒業生の声を在校生に具体的に話し、モチベーションUP。
- ▶ 登録料までまとめて徴収するシステムは、ありがたい。

専門学校グループ

ファシリテーター：金森千穂さん

- ▶ テーマ1 特別講演、トークセッションの感想
- ▶ テーマ2 学校としての取り組み

▶ テーマ1

- ▶ 学生は自分で動くのは好きだけど、人前は恥ずかしくて苦手。コミュニケーションが各校の共通課題。在校時にコミュニケーション能力を高められるかが課題。
- ▶ 医療（柔道整復師）系に就職してもトレーナーでもいずれ個人事業主になるので、経営と現場の話はよかった。
- ▶ グループ指導がしっかりできればパーソナル指導できる。
- ▶ 卒業してGFI資格を活かす際、JAFaがどのような顧客を持つ団体なのか具体的な情報があるとよい。
- ▶ JAFaヨガ、オリジナルプログラムが魅力的なので、エアロの30分、40分などのサンプルもほしい。

▶ テーマ2

- ▶ 成功体験をふまえるためにプログラムを指導して、一般の方への指導も。（成功体験は昨年の八戸保健医療専門学校の資料を参考 ※最終スライドに再掲）
- ▶ eラーニングを活用した授業をしたい。穴埋め問題などで理解度を深める。
- ▶ フィットネス基礎理論は国家試験に関係する内容が多い。基礎という面でJAFaのテキストは参考になる。

専門学校グループ

ファシリテーター：和田加成子さん

- ▶ テーマ1 特別講演、トークセッションの感想
- ▶ テーマ2 学校としての取り組み

▶ テーマ1

- ▶ 学生数が減っている。10年前の学生は、色々な資格を取るなど総合的だったが、今は勉強を限定して特化型になっている傾向。→SNSの発達より職業、職種を決めている印象。
- ▶ パーソナルは花形だが、集団指導との関連性、共通性を学生にマルチの必要性を伝えたい。
- ▶ 顧客獲得のためにグループ指導の有効性を伝えることが大事

▶ テーマ2

- ▶ マルチなスキルを身につける大切さや資格取得に対する教員の熱量、学生に伝えるための情報収集、落とし込むための研修が必要。
- ▶ 中学生の段階からインストラクターの職業、活躍を紹介・体験してもらうことでその後に結びついている。
- ▶ 授業だけではなく、実際の現場で今学んでいること「一連の流れ」としてを体感してもらう。
- ▶ 上級生、先生、プロなど下級生にセッション。オーディションやレッスンカテゴリーも決めてフィットネスフェスタも実施している。
- ▶ 公共プールなどの現場で水中エクササイズの指導。成功体験で受験につなげた。

専門学校グループ

ファシリテーター：宇都宮準一さん

- ▶ テーマ1 特別講演、トークセッションの感想
- ▶ テーマ2 学校としての取り組み

▶ テーマ1

- ▶ マルチ化の授業は展開しているか、インストラクターのイメージ像がなく、健実者含め縮小傾向。トレーナーが花形、メイン。ダンスがあると避けられる。少ない規模でもGFI取得をさせることに努めている。
- ▶ 現場を体験させる。

縦：学年をまたいで指導（卒業生・上級生・下級生）。横：学科をまたいで指導（音楽科のオリジナルソングを使って運動指導をしている）。

▶ テーマ2

- ▶ 卒業後も真の運動指導者として活躍するために、他団体との連携の強化、学びの場も増やしてほしい。
- ▶ GFI案内がインストラクターコースに留まる。
- ▶ 学校所属のエグザミネーターが科を跨いで体験授業を展開。
- ▶ 学校内認知度を高める。

養成機関グループ

ファシリテーター：林真奈美さん

- ▶ テーマ1 特別講演、トークセッションの感想
- ▶ テーマ2 集客できた成功例など

▶ テーマ1

- ▶ マルチに指導できることは重要。パーソナルだけではコミュニケーション能力が不足。コミュニケーション能力があるグループ指導からパーソナルの顧客を獲得できる。
- ▶ 新たに学ぶ場合、金銭面的に研修会は他団体の単位も同時にとれるのがよい

▶ テーマ2

- ▶ 人づて、SNS。中高年、子育ての後、セカンドキャリアなど。資格よりも勉強をしたい、という方はいる。
- ▶ 養成機関は時間の都合がつきやすいので、希望者に合わせて時間配分、内容、日数の調整を検討。
- ▶ 高齢者に対する指導、行政、地域につなげる指導者を養成したい

※昨年の研修会后 2023/10/13 八戸保健医療専門学校 角田様より

グループ意見交換会にて、柔道整復師の学校のカリキュラムにJAF Aを取り入れているということに、評価頂きました。

学生のモチベーションの上げ方で、医療従事者として関連づけさせることをしております。

- ①ストレッチ →治療の一部としての導入(保険診療外)
 - ②レジスタンス →怪我の予後の機能改善のための筋力トレーニング
 - ③エアロビックダンス →生活習慣病の予防、体重増加による下肢の腰部の傷害予防、改善※その為の有酸素運動の基礎知識の習得
- などを授業では伝えております。

また、最近の国家試験及び模擬試験等で、運動生理、解剖学、公衆衛生学(健康日本21より)、RICE処置などJAF Aで学習した内容が類似した問題で出題されてます。なので本校では1年生の履修になるため、上級学年にあがるための準備学習にもなっております。